#19 ヴィンテージ2&4輪大集結祭！
Auto e Moto d'Epoca Bologna

Yukoさんの

Italiaさんぽ

フランスの「レトロモビル」と双肩するほど、幅広いアイテムが揃う「オート・エ・モト・デポカ・ボローニャ」。F1マシンから紙細工まで、クルマとバイクにまつわるものであれば何でも揃うイベントだ。

Text & Photo : Yuko Noguchi
Special Thanks : https://autoemotodepoca.com

1969年に世界初の量産型直4エンジンを搭載したホンダCB750。国内外の様々なクルマとバイクが一堂に会する。

42回目となるこのイベントは、2年前にパドヴァからボローニャに移転され、会場スペースも入場客も大幅アップ。ここに来ればヴィンテージワールドにどっぷり浸れる。なんてったって約7000台のクルマとバイクが集まるのだから。

クルマとバイクの実車を中心に、13のパビリオンの中には部品コーナー、アートモビリア、ミニカー、紙もの、クラブ各種のコーナーが軒を連ねる。最近はそこにファッションや時計も追加され、まさに“ヴィンテージワールド”といった雰囲気だ。

今年のメインテーマは「F1・75周年記念」。会場メインには1950年代から2000年までのF1マシンがずらり。その一例を挙げると……。

Ferrari 500F2（1952）/ Mercedes-Benz W196（1954）……この他にもPhil Hill, Riccardo Patrese / Clay Regazzoni / Gilles Villeneuveがステアリングを握ったF1カー約20台が並んだ。各ミュージアムや個人所有から集められたF1マシン、さすが Auto e Moto d' Epoca Bologna のネットワーク力。

そして、ヴィンテージマシンを維持する人にとって、無くてはならないのが「部品ブース」だろう。どのイベントよりもこの部品ブースに力を入れている Auto e Moto d' Epoca Bologna。ここに来るとイタリアのクルマとバイク文化の奥深さに触れることができる。

日本では決して手に入らない、小さな部品や貴重なものを見つけることができるから、メカニックにとってはまさに宝の山。歩き回るだけでもウキウキして来る。それにしてもよくまあ、こんな“ガラクタ”が集まるものだと思うが、このガラクタこそがヴィンテージの世界では宝物なのだ。ホイールキャップ、エンブレム、ノブ、ミラー、ライトetc……。

ぎっしり並ぶ部品を眺めていると、“こういうところに盗難品があったりするのだろうか……”と、つい邪推してしまう。というのもイタリアの盗難車の数は尋常じゃなく、その多くが部品取りに使われ、最終的にはどこかに流れていくものと思われる。

最近はどこのブランドも“ヘリテージ”という言葉を使い、“歴史”が重要だと謳っている。歴史こそが価値。だからなのか、最近は自分のクルマやバイクの歴史を徹底的に掘り起こす人も少なくない。特にこのようなイベントに訪れる人は、物語探しに躍起となる。

好きなクルマ。好きなバイク。人によって“好きになるポイント”は違うが、ヴィンテージワールドは知れば知るほど深くて面白いのだ！

気になるチケット代は、木曜日58ユーロ、金曜日35ユーロ、土・日曜日27ユーロ。9時から終了時間（18時 or 19時）まで楽しめるからお勧め！

来年2026年は10月22日～25日だそうだ。日本からも足を運んでほしい。

フェラーリ312T4の奥には、新旧様々なF1マシンが展示されている。

1970年にレースマシンとして作られたアルファロメオTZペリンSP。

ドアハンドルやキーシリンダーなどが大量に無造作に置かれるコーナー。

Yuko Noguchi
● 野口祐子

80年代後半に渡伊。自動車関連の取材コーディネーターなど、現地で幅広く活躍。モットーは必ず現地まで足を運び、自身の目で確認すること。

T404_P135_Yuko_2校.indd 135 2025/11/29 1:11